

そけいヘルニアの日帰り手術 心身の負担軽減と経済的メリットも



医療法人社団
みやざき外科・
ヘルニアクリニック
理事長・院長
宮崎恭介

そけいヘルニアとは、小腸や大腸などが、ももの付け根（お腹と足のさかい目）のそけい部から飛び出してきた状態です。根治のためには手術が必要ですが、痛みがない場合は緊急性がないため、自身のタイミングで手術を受けることが可能です。

当院の日帰り手術は、午前中に手術をし、麻酔が覚めたら退院できます。翌日から通常通りの生活を続けられるので、精神的、肉体的な負担が軽減され、入院がない分、医療費が安くすむ経済的な利点もあります。通常の手術で約5万円程度の自己負担額となります（3割負担の場合）。高度な技術と豊富な経験を活かして、患者

さんへの説明と同意、満足度の高い治療を行うことを徹底しています。

手術は、先天性の小児そけいヘルニアの場合1.5～2 cmの皮膚切開から、ヘルニアの出口で腹膜を縛って閉鎖する高位結紮（こういけっさつ）術を実施。後天性の成人そけいヘルニアでは、ヘルニアの出口を広くメッシュのシートで塞ぐヘルニア修復術を行います。筋膜や筋肉を無理に縫い合わせないため、痛みが少なく再発が極めて少ないのがメリットです。

当院の手術件数は、1歳の小児から100歳の超高齢者まで、総計10,000件（2025年4月末現在）を超え、このうちそけいヘルニアは9,038例（成人8,708例、小児330例）です。最近では、体力が落ちて、環境変化による症状悪化が心配な80～90歳代の高齢者の手術件数も増加しています。